

11 (いい) 関係が広がる年に

イベントグループボランティア

中島 健

昨年、開館して10年を迎えたグラントワ。高校までの部活では石西県民文化会館にお世話になったり、グラントワのオープン前にバックヤード見学をさせていただいたり、知人にボランティア会員がいたりして、ずっと興味はあったのですが、ご縁をいただきボランティア会に入れていただいたのが約3年前でした。石西の頃からボランティアをしておられた方をはじめ、皆様からいろいろ教えていただき感謝しております。

今年は11年目。標題にも書きましたが、語呂合わせで、11(いい)関係が広がる年になればいいな、と、私は勝手に願っております。

私は今、職場では逆の立場、つまりボランティアの皆様と活動する団体職員で、ボランティアと職員が、思いの一つにして、また、分かち合い、目的の達成に向けて一緒に邁進する環

境にあると思っており、とてもありがたいと感じています。

グラントワでは逆の立場ですが、とても「いい」関係で、誇りに思っています。そして、今年はこの活動に参加する人がもっと広げばいいな、と願っているところですが、他所から住居を移してこられた方からも、グラントワを誇りに思っていることがあります。

また、芸術文化センターの「文化」は、グラントワの場合、「生活文化」

へ特に意識を向けられている感じがして、とても親しみを感じているところ。森英恵さんデザインのファッションをはじめ、企画展「マリメッコ展」などもそうですね。今年のゴールデンウィークのマルシェや、3月下旬にあったマルシェ(貸館/美術館とのコラボ)も、日常をより豊かにするヒントが満載の、生活

文化の向上につながるものだったと思います。

縁あって、グラントワ利用の1,500人規模のコンベンションの実施にこれまで2度、関わらせていただきましたが、なかなかそういったことに向く施設が近隣にない中で、グラントワはかなり高い評価を得ていると思います。たとえば、食と、それを取り巻くことをテーマにした、マルシェの総合版のようなことも、益田圏域の山、里や川、海、そして人を以ってすればきっとできます。地域の食の産業化に大いに寄与しますし、それを一端として、自ずと生活「文化」発信の中心(センター)になり得る可能性があります(もう充分なっているかもしれませんが)。

もちろん、「芸術」による生活への潤いも忘れてはいけません。これもまた「芸術」と「文化」の11(いい)関係、ですね。



企画展
「こどもファッション展」



NHK交響楽団 島根特別公演

指揮：井上道義

ピアノ：小山実稚恵

7月3日（日）午後5時30分開演

情報発信ボランティア

大庭 明博

プログラムは次の通りです。

ラフマニノフ … 『ヴォカリーズ』

ラフマニノフ … 『ピアノ協奏曲第2番』

チャイコフスキー … 『交響曲第4番』

◎ 『ヴォカリーズ』について

原曲は歌曲で、歌詞がなく母音だけで歌われます。ロマン派の音楽ですから、物悲しくも甘ったるい感傷を息の長いメロディーで綴ります。この曲を世界中で一番美しいと感じる方もいらつしやるくらいに深い哀愁を湛えた綺麗な曲ですね。通常、原曲とは異なり編曲で演奏されることが多く、管弦楽や、チェロとピアノ、時にはホルンとピアノなどあらゆる楽器で演奏される人気曲です。

◎ ラフマニノフのピアノと管弦楽のための3つの作品

10年前のNHK交響楽団初めてのグラントワ来演のときも演奏された『ピアノ協奏曲第2番』は、正にラフマニノフの代表

作と言える作品で、映画やフィギュアスケートなど、様々な場面でBGMに使われています。第1楽章の導入部、ピアノの独奏で鐘の音を模した荘重な和音が奏でられたあと、弦楽器が太く厚みのある旋律を歌い、ピアノがアルペジオで支えます。第2楽章は夢見るように美しい緩徐楽章です。フルートやクラリネットなどの木管楽器とピアノとの対話が聴きどころです。耳を澄まして聴きたいですね。第3楽章は最後のクライマックスに向かっているクレッシェンドが迫力の華々しいフィナーレです。

『ピアノ協奏曲第3番』は、簡素なテーマながらロマンティックなメロディーで始まり、ドラマティックで起伏に富み緊張感にあふれた展開が繰り広げられる大作です。

『パガニーニの主題による狂詩曲』はヴァイオリンの巨匠・パガニーニのカプリース（奇想曲）の最後の曲からテーマを採った変奏曲です。24回変奏されます

が、とても色彩感に富んでいる楽曲で、特に第18変奏は美しく絶品です。ピアノが天から舞い降りてきたような綺麗なメロディーを出し、弦と木管が続きます。

◎ チャイコフスキーの後期交響曲

チャイコフスキーは6曲の交響曲を残しましたが、今回演奏されるのは『交響曲第4番』です。第1楽章は冒頭からホルンとファゴットの「運命の動機」とされる力強くはあっても、やや暗い旋律から開始されます。第2楽章は悲しくも美しいオーボエの旋律が印象的です。いわゆる「チャイコフスキーの泣き節」と言われる、とてもせつないメロディーです。第3楽章はそそっかしく弦のピツチカートが大部分を覆っているのが大きな特徴です。第4楽章は迫力の全楽器の強奏で始まり、終わりには曲の冒頭の「運命の動機」が終結部の前に現れます。

『交響曲第5番』はおそらくチャイコフスキーの交響曲のなかで、一番演奏機会の多い人気曲で、冒頭、クラリネットの暗い主奏旋律で始まります。続く楽章はホルン独奏による気品と憧れに満ちた旋律より展開していきま

す。第4楽章、主奏旋律が回り帰し、オーケストラの全合奏で華麗に終わります。『交響曲第6番』は交響曲作曲史上有数の名曲です。「悲愴」という標題があり、初演の9日後に作曲者が急死しています。冒頭のコントラバスをバツクのパゴットの呻き、最終楽章終結部の遠い宇宙の果てに引き込まれるような終止ですべてが静まり返ります。



企画展 7月11日まで 「マリメッコ展」



◎ 終わりに

国内有数のオーケストラ、NHK交響楽団のグラントワ公演は3回目。指揮者の井上道義さんは、昨年、東京都交響楽団を率いて来られたのに続き2回目となります。また、小山実稚恵さんは石西県民文化会館の来演より含めて、5回目という益田とは縁の深い国内有数の人気と実力のピアニストです。彼女については、平成22年8月発行の応援団通信第27号を参照下されば幸いです。

①グラントワ・・・検索

②グラントワボランテシア会・・・クリック

③応援団通信バックナンバー・・・クリックで、ご覧いただけます。

ラフマニノフは33歳年上のチャイコフスキーをとても尊敬していましたし、チャイコフスキーもラフマニノフを高く評価していました。ロシアの大作作曲家二人の名曲を心ゆくまで楽しめればと思います。

変化する益田の風景

情報発信ボランティア

洗川 光 廣

4月8日、グラントワ交流会が開催されるといふことで、津和野町よりJR山口線で益田駅に着く。歩くのも運動であると思つて駅前を左に曲がり、駐車を左右に見ながら歩く。高校生の駐輪場には市内の高校、隅に津和野の札も見えた。駐車場の角を右に折れ、本通りの手前より左に裏通りに入る。

前に自転車を押して行く人、しかも片手は荷台を持ち上げていて押しているのである。女子高生の様子、力強い女性だなと思つていると、道の突き当りを左に曲がった。

私は右に折れ本通り交差点の信号に出る。そこをグラントワ方向に交差点を渡る。100メートル位歩くと市役所の庁舎が見える。庁舎の前は、広い空間ができています。この辺りは、以前、信金やホテル、画材店、理容店などがあつたところだ。画材店は新しく店を営業。なじみの理容店は店じまいされた様子である。

市中心のこの辺りが、先々どのような風景になるのか、グラントワに

来る度に変わる街の景色に目を見張る。

市役所前をグラントワへ向けて歩く。この辺りで駅前より15分程度。市図書館前を過ぎ、グラントワの赤瓦を目の前に、道を右に折れ、裏側周辺道に入る。

このあたり山手の側溝の用水がゴウゴウと音を立てて流れていた。気持ちいい水音。

道路左側のグラントワ駐車場法面には、桜が植えられている。10年前に桜の木がオーナーが植えたもので、木の根元にオーナーの名札がある。今では見上げる高さに茂っている。

今年、満開の花の時期には、さぞかし多くの人が見に来られたことでしょう。桜の名所になっているのか！そんな名残の空気を感じた。

後日、5月1日、石見美術館の「マリメッコ展」を鑑賞に行く。この日は、駐車場は満杯、第5駐車場に回る。そこからグラントワの裏側の道を歩いていて気付いた。桜の木が植わっている法面に、春の野草が観察された。「ハルジオン」など幾種類もの花が咲いていた。

「マリメッコ展」は、奇抜で派手な



「マリメッコ展」

デザインが布に印刷されていた。明るい自然の図柄、繊細で勢いのある手書きの線、連続した形、縦長に印刷された壁掛けは、壁面を明るく印象づけている。寒い冬でも室内の空気を温かくさせてくれそうな、そんな大胆で明るい図柄であった。日本の家で床の間に飾られる「掛け軸」の感じで、とても印象深い作品の展覧会でした。

ボランティアを終えて考えること

情報発信ボランティア

山根幹央

グラントワ・ボランティア会でお世話になりました山根幹央です。2年近く情報発信とイベントの2つのボランティアに参加させていただきました。4月から就職で益田を離れますので、ボランティア会を退会することになりました。これまでのボランティア活動では、たくさんの方の活動を学ばせていただきました。これまでの活動を通しての感想を書かせていただきます。

まずボランティアをする上で最も良かったと思つたことは、ボランティアをする精神を学んだことです。無償で誰かの役に立ちたいという思いに接することができて、自分にとっては大きな刺激になりました。見返りを求めずに、誰かを楽しませたいという考えは自分の人生も豊かにしてくれるのだと思ひました。無償とはいえ、ボランティアをする以上は責任が伴います。皆さんは責任感をもつた上で、ボランティアを楽しんでおられます。お仕事の合間に参加されている方が多いため、夕方以降に活動を行っていることもあります。特に私が参加させていただいていたイベント、情報発信では会

議などの活動は夜に行っていました。

お忙しい中でもご自身の時間を割き、グラントワや益田のためになることを考えて皆さん参加されていました。ボランティア会の方々の姿をみて、私も無償で誰かの役に立つというボランティア精神で参加するように意識していました。グラントワではボランティア会員に対して、活動時間に応じた特典を配っています。その特典をあえて受け取らずに活動をされている方がおられました。そのことを知ってからは私も特典を受け取らずに活動することにしました。ボランティア精神を大切にしたいと思つたからです。

グラントワのボランティア会は他の地域の展示施設などからも注目されているほど活発に活動しています。これからボランティア会をより発展させていくためには、地域住民にとってボランティアをより身近なものにしていく必要があると思います。一般の方の中にはボランティアは心に余裕のある人がするもの、或いはお金に余裕のある人にしかできないという考えをもっている方がおられます。ボランティアを身近に感じておら

れない方に、改めて地域のコミュニティとしてボランティア活動を広めていくべきだと思います。特に若い世代に対してのアプローチを強化して、益田の活性化につながる事を目指していただきたいです。10周年を迎えたグラントワは、これから20周年を目指して益田を支えていきます。ボランティア会に新しい会員を積極的に勧誘することは、益田全体のネットワークを広めることとなります。それによって益田市が活性化するとともに、ボランティア会にとっても新しい刺激を受けることとなります。

最後にある日突然ボランティア会にやってきた私を、温かく迎えてくださったボランティア会の皆様にお礼を申し上げます。はじめの頃は自分から入会したとはいえ、知人が誰もいない中で参加で、非常に馴染めるか不安でした。私に様々な体験をする機会を与えてくださり、ボランティア精神を教えてくださいました。大変居心地の良い場所になりました。そして私に文章を載せる機会を与えてくださった大庭さん、飯塚さん、情報発信の皆様にお礼を申し上げます。文章を終わらせていただきます。あ

りがとうございました。

【あ と が き】

待ち遠しかった春の桜もあつという間に過ぎてしまいました。

4月14日に熊本で震度7地震発生続いて本震震度7発生、建物倒壊、死者多数、新幹線高速一時不通。自動車工場も操業停止、今も余震が続いている。5月連休明け、学校の授業は再開。避難者は今も多数、1か月が過ぎた今も混乱が続いている。大変である。今年の春は、雨も風の吹き方も尋常でない。嵐である。「くわばら、くわばら」。

左の写真は、グラントワの満開の桜の風景です。

